

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第6章 パート3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

世が欲望のままに動いた結果、もたらされる獣とはごく微細なもの。

エイズやエボラ出血熱。

私たちが生きる、この荒れた世を見て下さい。

政治家を見ていると、いや、クリスチャンでさえも、その言動はまともではなく、それが最終的には戦争を引き起こすのです。

政党間の、企業間の争いが、最後には国家間の戦争を生み、血を流すことになる。

そして来るのが飢饉。

肉体的のみならず経済的な不正、それらが人々を病ませるのです。

第四の獣。

「私たちはテクノロジー世代だ！」と自身を誇りますが、皆さん、よく考えて下さい。

現代は健康問題に関わる技術が溢れていますが、何とも思いませんか。

技術が進み、機械のおかげで、場所から場所へあっという間に移動できます。

でも…足は衰え弱くなりました。あまり歩かないから。

ダイエット！これはどうだ!? まったくもって痛々しい。

「あそこのホームページをみたか？ 最先端の技術だ！」

最先端の機械、素晴らしい医療技術。

しかし、この文化…アメリカは、一体どうなってしまったのでしょうか。

この国の業界トップは健康産業。

これは、『あなたたちは病んでいる！』ということをお話しているのですよ。

でも誰も気付いていません。

「私たちは最先端を行っている。」と信じています。

だけどそれは違う。私たちは病気の患者です。

これらの馬は、医療技術や健康管理のように実態が隠されて、いかにも素晴らしいように見えます。

でも、違う。あなたは病気の患者です。

戦争、愛国心だ！ 戦争、解放だ！

違う！それは死と地獄。

政治家、当てにならない！

鬱になりそうです…！！

…先に進みましょうか。

小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。(黙示録 6:9)

彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか。」(黙示録 6:10)

すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。(黙示録 6:11)

第5の封印で起こっていることもまた、世が「自分たちのやり方でやるんだ！」と自ら選んだ結果です。自分のやりたいようにした結果であって、神の罰ではありません。

それはまだです。

彼らは何をしたでしょう。

あっという間に状況は悪化し、白い馬に乗った者はもう信頼に値せず、契約は破棄されました。

そして血が流され、飢饉があり、続いて病気と疾病。

その責任を問われるのは誰でしょうか。

第5の封印では、信者が殺され始めます。

私たちは天国ですね。

では、ここでの信者とは？

この大患難の中で、かつてあなたが伝道し、話してきた人たち、まだその時は信じなかった人たちの多くが信じるようになるのです。

私たちがこの世からいなくなると、彼らは、私たちが言っていたことや、あなたが差し出した本や貸したテープを思い出し、その全てのことが頭の中でつながって救われるのです。

するとどうなるでしょう。

世が崩壊し始めると、人々は「お前のせいだ！」と信者を責め始め、そして殺す。

「ジョン、それは絶対ないよ。」
そうですか？歴史を見て下さい。

ヨーロッパの黒死病（ペスト）。
ペストが流行した時、ヨーロッパでは4人に1人が亡くなりました。
ペストで死んだのではなく、ペストのために殺されたのです。
この病気と死が横行している時、影響を受けなかった人たちがいました。
ユダヤ人です。

彼ら自身にもその理由は分かりませんでした、守られたのです。
今は分かります。

彼らは、聖書に書かれた衛生概念に従っていました。
神の御言葉にその通り従ったがゆえに、伝染病から守られたのです。

陣営の外に出て、“モノ”を土に埋める。[\(申命記 23:12 - 13\)](#)

神の御言葉はとても実用的です。

しかしヨーロッパの人々は、「どうしてユダヤ人だけが死なないのか!? あいつらがこの伝染病の原因に
違いない。」と言い出しました。「殺せ！」

そうして、神の御言葉に従ったユダヤ人を迫害し殺した。

過去においても、そしてこれからもそうです。

大患難時代、病気、流血、戦争、大不況が蔓延すると、人々は新しく信者となった人たちを見て「殺せ！」
と言い、殺害するようになります。

第5の封印は人間の罪が暴走した結果で、神の子供たちが殺される。

その時、彼らは叫び声をあげました。

「主よ！いつまでですか！」

天国の祭壇の下にいる、殺された人たちの魂が叫ぶのです。

ここでようやく、神が直接動き始めます。

私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように
黒くなり、月の全面が血ようになった。[\(黙示録 6:12\)](#)

そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであっ
た。[\(黙示録 6:13\)](#)

天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移され
た。[\(黙示録 6:14\)](#)

激しい地震が起きて、全てが激変します。

理由として可能性は2つ。

1つは“核の冬”（Nuclear winter）の中で説明されています。

時間がないので詳細は省きますが、核戦争によってこのような状況に陥ります。

太陽が見えなくなり、空全体から星が落ちてくるように見える。
そして激震。地核が激しく動くことは大いにあり得ます。
しかし私は、それよりもむしろ、神が直接手を下されるのだと思います。
なぜなら神の子供たちが攻撃されているから。
私も普段、大抵のことは座って見守ります。
但しそれは、私の子供たちが攻撃されるまで。
勿論私と同じように、子供たちにも欠点があることは分かっていますが、一旦我が子が攻撃され始めたら、私は決して、絶対に黙っていないから。
震えが来るほどに。

気をつけて！

ここでは、地が揺れ動いて震えています。
なのでここは可能性として、神の子供たちが攻撃され、殺されているという第 5 の封印に対しての神の反応だと思います。
神が震え始める。

時間がないので省略しますが、科学好きの人にはとても興味深いことでしょう。

天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり（黙示録 6:14）

「天が巻き物のよう？」そうです。
神は天を創造して、これを広げました。（イザヤ書 42:5）
以前、人々はこのことを笑ったものでしたが、現代では、確かに宇宙が拡張していることが科学者によって証明されていて、今現在も引き伸ばされ続けています。
イザヤが言った通り、宇宙は常に拡張しているのです。
量子力学は、アインシュタインの理論に基づいてそのことを証明しました。
宇宙は拡張し続けていて、且つ湾曲しているのも事実です。
こういうことを専門に学び、研究している原子力学の科学者たちが“宇宙は巻き物のよう”だと言うのです。
「宇宙は拡張し続けていて、その形は巻き物のようだ。」
これを読んだ時、私はワクワクしました。
聖書に、“天は巻き物が巻かれるように”と書いてあるからです。

地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、山や岩に向かってこう言った。（黙示録 6:15 - 16）

核戦争の時、もしくは神が揺り動かす時、金持ちも貧しい人も奴隷も自由人も、誰もがみな、覆いを求めて逃げます。
彼らは、ほら穴と山の岩間に隠れ、山や岩に向かってこう言った。
「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。」
（黙示録 6:15 - 16）

「私たちの上に倒れかかれ！」と岩に向かって言いました。
彼らは、初めからある岩に向かって叫ぶべきなのに、頑なです。
人間の頑なさには、本当に驚きます。

以前、入院している男性に、「神はあなたを本当に愛しており、神を受け入れたら救われて天国に行ける。」
と話しをしたことがあります。

彼は 79 歳で余命は数時間。

返事は、「出て行ってくれ。79 年間、神には頼らなかった。今さら何なんだ。」
だから私も言ったのです。

「お願いです。すぐに出て行きますから。あなたは誰を信じているのですか？」

「自分自身だ。」これが、彼の最後の言葉でした。

強情。

同様にここでも、これが神の業であることを認めながら、「私たちの上に倒れかかれ！」

「殺せ！」「ここから連れ去ってくれ！」と岩に向かって叫ぶのです。

助ける力がある方ではなく。

「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」(黙示録 6:16 - 17)

「これは神の怒り、小羊の御怒りだ！誰が耐えられるだろうか!!」

私たちは耐えられます。

第 1 テサロニケ 5 章に書かれている通り、私たちは天国にいるからです。

神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。(第 1 テサロニケ 5:9)

そして、ここからがグッドニュース。

立っているのは私たちだけではありません。

7 章に入ると登場する 3 種類の人々がいるのです。

彼らもまた、小羊の御怒りの時に立っている人たちです。

世界中で私たちクリスチャンだけが、これらのことをはっきり見ている、他の人たちは皆、惑わされています。

政治家によって、テクノロジーによって、愛国主義によって、経済的に、けしかけられ煽られて。

黙示録を通して本質が見えてきますが、それはひどいものです。

「絶望的だ。」と言いたいですか。

そんなことはありません。

これが、私の人生を成功に導くのです。

このおかげで、私は世に希望を置きません。

株のようなものにも一切手を出しません。それがどういうものか分かるから。

このようにクリスチャンだけが、唯一、現実主義でいられます。

悲観主義？いいえ！

クリスチャンだけが楽天的と言えます。

なぜなら、天国は近く、王がもうすぐ戻って来ることを知っているからです。

私たちは、世的な希望に呑みこまれたりしません。

クリスチャンの集まりだけが、世界中で唯一、真実について語り、希望を持つことができる祝福された集団、唯一リアルで健全な場所です。

私たちは祝福されているのです。

だから聖書は、教会、信者、信仰のコミュニティを、**真理の柱また土台である（第1テモテ 3:15）**と言ったのです。

黙示録の著者ヨハネが、私たちに伝えておきたかったことは、「世の中は混乱し、恐らく魔法にかけられたように魅惑的に、そして破滅的になるだろう。」

「だから常に天の御国を求めなさい。」

「羊たちよ、恐れるな。あなたたちに王国を与えるのは、御父の喜びなのだから。」

私たちは、**真理に逆らっては何をするすることもできず、真理のためなら、何でもできるのです。**

（第2コリント 13:8）